

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201239		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホーム サンライフ堀越		
所在地	青森県弘前市大字柳元293		
自己評価作成日	平成27年8月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に保育園が隣接しており、日常的に園児と交流を持ち、季節の行事等を一緒に行なって、積極的な世代交流を特徴としている。 ホーム内は入居者の暮らしやすい空間をモットーとし、無理に勤めず、自分らしさを持って生活できるように支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に同法人の保育園があり、気軽に行き来したり、運動会や夏祭り等の行事も一緒に行っている。また、地区の児童館や公民館、小学校とも積極的に交流し、住宅地では無いものの、地域に根ざしたホームとなっている。 職員も地域密着型サービスの役割を理解し、利用者がその人らしい豊かな生活を送れるよう、皆で協力し、支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の方々と交流を持ち」と理念にあり、基本理念を朝の申し送り時に全員で唱和しながら、共有、実践をしている。	「あずましく 自由に 毎日楽しく」、「地域の人と交流を持ちながら家庭的な雰囲気の中で残存機能を生かし、家事や趣味を楽しむ」という独自の理念を、職員全員で作り上げている。また、朝の申し送り時での唱和やホーム内への掲示等で理念を共有しながら、日々のサービスに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	堀越公民館と交流を持ち、行事等の時は出かけている。	住宅街ではないものの、保育園が併設されていることから、保育園の行事はもちろん、学校や児童館、中学校や地域の公民館のボランティアと連携しながら、地域の一員として活動している。また、公民館への作品展示や町内会への広報誌回覧等、地域への啓発活動も積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの研修に参加している他、法人で開催している養成講座で協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、事業の報告をしながら意見をいただいている。	町内会長・地区の消防団・地域包括支援センター職員・利用者家族・利用者代表等をメンバーとして、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、年間で日時を決めているため、毎回、ほぼ全員が出席している。利用者からの感想をもとに全員の意見を引き出し、今後の取り組みにつながるよう、和やかな雰囲気で開催しており、法人内の施設見学も行い、会議の意義と役割の理解に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの運営について疑問点があった場合等は、メールで随時、質問・返答をしてもらっている。また、運営推進会議への出席をお願いしながら、出席の際は質問等をしている。	運営推進会議には、市役所職員が年数回参加している他、地域包括支援センター職員は毎回参加している。市役所職員とは必要時にメールでやりとりしたり、会議録や広報誌等を配布した際に意見をいただいている。また、実地指導の際にも課題解決に向けて連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての研修等に参加し、報告しながら理解を深め、拘束をしないように取り組んでいる。	身体拘束に関する内部研修や外部研修で、職員は身体拘束の内容や弊害について理解と共有をし、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関等に施錠はしておらず、利用者は自由に庭を散歩している他、職員は外出傾向を察知できるよう観察し、職員間での連携を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての研修等に参加し、報告しながら理解を深め、虐待しないようにホーム内で注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加して理解を深めている。また、成年後見制度を利用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項をもって説明し、都度、同意を得ながら、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、いつでも投稿できるようにしている。	利用者との日々のコミュニケーションを大切にし、一緒に家事をしながら、会話の中で意見を聞くように心がけている。また、家族には個別のお便りの配布により、利用者の日々の生活状況を報告し、月1回は面談により意見を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めや随時、業務に関すること等を意見、提案できるように工夫している。	月2回のカンファレンスや普段の会話の中から職員の意見や提案を聞き、日々のサービス向上に反映させている。利用者との馴染みの関係を保てるよう、年1回、法人内での人事異動は必要最低限としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務規定等は法人から年に1回説明があり、いつでも閲覧できる場所にある。職員の将来の目標等を聞き、資格取得等は達成できるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立てながら、本人の力量・ニーズに合うように、研修に全職員を参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内部の研修で、グループホーム内での内部研修を実施し、サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前からの生活を継続できるよう、家族や居宅介護支援事業所より情報をもらいながら、本人の様子を観察し、安心していただけるようにサービスを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けている段階で家族の不安なところ等を聞き、小さな事でも相談できるような関係をつくるように援助している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けている段階で家族の要望を確認し、居宅介護支援事業所等にも相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能や趣味、嗜好を取り入れながら暮らしていけるよう、関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない事は家族に相談しながら協力していただき、共に支援していくように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活を継続できるように、美容院等は本人の要望を聞きながら支援している。	入居時に本人や家族、ケアマネージャー等から馴染みの場所や人について情報を得ており、入居後も馴染みの美容院や温泉、墓参りに行けるよう、家族と一緒に支援している。また、これまでの人間関係を継続できるよう、電話や手紙のやりとりも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の人間関係や性格等を把握しながら、無理に勧めず、レクリエーション活動や館外活動への参加を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後の介護サービスの利用等について確認し、必要に応じて相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を聞きながら、できる範囲で叶えられるように援助しており、どのようにすればできるかを検討している。	日々のコミュニケーションを大切にし、希望や意向を上手に表すことができない利用者には、表情や行動を観察する等、全職員が利用者の視点に立って、意向等を把握するように努めている。必要に応じて、利用者の家族や親戚、訪ねてきた友人等からも情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らし方を、サマリーや相談記録で把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の表情や言動等で状態を把握し、記録しながら申し送り、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来館した際に現状を報告しながら、要望や方法を聞き出している。カンファレンスの時に、職員から意見を言いやすいような雰囲気づくりをし、良い意見があったら取り入れる。	担当職員やその他全職員の意見や気づきをカンファレンスにより聞き取りし、本人はもちろん、家族や医師等の意見も反映させた個別具体的な介護計画を作成している。利用者の状況や希望に変化があった際には、期間を問わず、随時、見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングシートを記入しながら支援していき、結果を報告して、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の主介護者が家族として支援できなくなった時、他の家族に報告し、市役所や地域包括支援センター等と相談しながら、手続き等を協力した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な地域のサービスを把握しながら、本人の希望を取り入れ、援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を重視し、継続受診を援助しながら、本人の状態に合わせ、家族と相談して支援している。	入居時にこれまでの受診状況を聞き取りし、利用者が希望する医療機関を受診できるように支援している。状況に応じて、認知症専門医の受診や歯科医の往診も行い、家族も含め、医療に関する情報交換や話し合いが行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状態を訪問看護師に報告・相談し、指示を受け、援助している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはホームでの生活状況を報告し、退院する際は本人の状態確認や説明をもらいながら、退院後の支援について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に、重要事項説明書にて重度化の時の説明を行い、同意を得ている。	重度化や終末期の対応について、ホームの方針を入居時に説明し、同意を得ている。看取りについては、ホームの方針と対応方法、不安解消のために内部研修等で理解を深め、話し合いが行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を2年に1度実施し、職員全員が受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回以上実施し、6月には地震の時の避難訓練を実施した。夜間想定 の避難訓練には地域の消防団も参加しており、いざという時は協力してくれる。	年3回の避難訓練(内1回は夜間想定)を行い、地区の消防団にも参加していただき、災害時の協力体制を築いている。災害時に備え、消防設備は年2回、業者に点検を委託し、食料品やストーブ、ガスコンロ等、災害時の物品等も準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格等を尊重し、言葉をかけて対応している。	利用者の言動を否定したり、拒否することはなく、年長者として尊重して接している。利用者の個人情報は外部の方の目の届かない場所に保管し、職員からも入社時に守秘義務についての同意書もらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き入れられるように問いかけ、納得して生活できるよう、声がけや援助をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重し、マイペースに生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院でのパーマ・髪染め等を希望する時はできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の誕生日には好物の物を出したり、日頃から嗜好を把握しながら献立に活かしている。入居者のできる範囲で、お盆拭きや食器拭き等を手伝っていただいている。	献立は基本的に法人の管理栄養士が作成し、週1回はホーム独自のメニューを提供している他、2ヶ月に1回、法人の給食会議があり、利用者の希望を提案している。また、後片付けや下ごしらえ等、できることは職員と一緒にさせていただき、一緒に食卓につき、サポートをしながら、楽しく、ゆったりとした食事時間を過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成し、栄養バランス等を管理している。食事量や水分量は毎食時、把握している。また、誕生日等には嗜好に合わせ、献立に組み入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯の洗浄を促し、できない人には援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録しながらトイレ誘導を検討したり、会議を開いて検討している。	一人ひとりの排泄パターンを把握、記録し、パターンに応じて事前誘導を行う等、自立に向けた支援をしている。定期的な会議で、おむつ使用継続か否かの話し合いを行い、随時、見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな人には運動や食事(乳飲料等)を取り入れながら、便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入る順番やお湯の温度等、一人ひとりに合わせ、ユニットの入浴日以外でも希望があれば入浴できるようにしており、ゆっくり入浴できるように支援している。	利用者の入浴習慣や好みを把握し、基本は週2回だが、希望すれば毎日でも入浴できる体制を整えている。利用者の羞恥心に配慮して、一人ずつ入浴したり、同性介助にする等の支援をしている。また、入浴を拒否する方には、仲の良い他の利用者の協力を得て声がけする等、楽しみながら清潔を維持できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おおまかな1日のスケジュールはあるが、本人のペースを尊重し、休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回、お薬情報を確認し、ファイルを作成しながら、薬剤師とも連携して支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や趣味等を取り入れ、役割を持って生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「畑に行きたい」、「温泉に行きたい」等の希望を家族に説明し、協力してもらっている。	日常的に外を散歩したり、日常会話の中から利用者の行きたい場所を把握して、年数回はドライブ等を楽しめるように支援している。また、農家だった利用者が農繁期に自分の畑の様子を見に行きたい場合等は、家族の協力を得ながら、希望に沿えるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者に関しては、いくら持っているかを把握し、家族に紛失の際の対応について説明しながら対応する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を使い、かけたい時に電話をかけている。家族から手紙が来た時や返事を書きたい時は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、一定時間に温度・湿度を記入しながら管理をし、季節に応じた飾りやお花を飾る等、季節感を出すようにしている。	大きな窓から見える田園風景は、自然の四季を感じることができ、適度な日差しと温度設定で居心地の良い空間となっている。台所等も家庭的なもので、テレビや職員の立てる物音も騒がしくなく、利用者はゆったりとした時間を過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室になっており、一人になることが自由にできる。また、ホーム内を自由に散歩でき、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持ってきていただきながら、継続して暮らしていけるように支援している。	入居前からの使い慣れた物や趣味の物の持ち込みを積極的に働きかけ、位牌や鉢植え、椅子等で個々に合った居室をつくっている。持ち込みの希望がない方でも、職員が棚を手作りする等、利用者と一緒に居心地の良い空間づくりを支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの設計で、車椅子でも自由に移動でき、見守り等をしやすいように設計されている。		